

令和7年11月2日

ご門信徒様

宗教法人 光照寺
住職 濱寄重信

第38回 定例法座 ためして仏教！！ご報告

- 日 時 令和7年11月2日〔日〕 13時半～15時半
- 場 所 光 照 寺
- 必要な物 お数珠 筆記用具 赤本
- 今回のお題

「親鸞聖人ってどんな人」

スケジュール：

13:30 お勤め
13:45 座談
14:30 法話
15:30 終了

親鸞聖人（満89才 数え90才の）生涯のDVDをみんなで鑑賞しました。

親鸞聖人の生まれた時代（1173～1262）

親鸞聖人は、平安時代末期から鎌倉時代にかけて、90年のご生涯を送られました。親鸞聖人が生まれた頃、都では平氏一門が栄華を極めていました。しかし、その平氏も十二年の後には滅び、かわって源氏一門が武家政治への道を開き始めます。その間には、源平二氏の戦い、比叡山・奈良の僧兵たちの争いのため東大寺や興福寺が焼き払われ、今まで人々に尊ばれてきていたものが、その権威を失い、人々のものの考え方方が根底から覆されていく動乱の時代でした。そのうえ地震や大火などがあいつぎ、さらに飢饉や疫病などのために、死者が都にあふれ、その死臭が人々の不安をいっそう深いものにしていました。誰も彼も、悲しみや苦しみに耐えながら、その日一日を生き抜くことに精一杯でした。ただそれだけに、人間として生きていることの意味を問いかけていたともいえます。聖人は、そのような時代に生を受けられたのです。『宗祖親鸞聖人』より

一番伝えたかったこと、親鸞聖人は、苦悩しながらも、誰もがお念佛一つで救われる教えを求め続けた生き方であったこと

親鸞聖人は、迷いながらも常に求道しつづけた日々だったと思います。晩年まで書物を何度も推敲した形跡が見られます。主著である『顕淨土真実教行証文類』は、ほとんどの箇所が引用によって成り立っています。又、親鸞聖人は、先人の書物を書写することが多くありました。親鸞聖人は、ご自分の考え方や思いもおありだったことでしょう。しかし書物や師をはじめ、教えを大切に生きてこられた方の生き方を通して、どこまでも猶師や商人やお百姓さんと一緒に聞法（教えを聞く）しつづけたのではないでしょうか。私たちが生きている時代は、親鸞聖人の生きた時代と類似しているように感じます。戦争が起り、自然災害が起り、感染症が蔓延し、人のものの考え方や価値観が転換し、先の見通しがつきにくい時代のようにあります。だからこそ、親鸞聖人の生き方を通して自分自身の生き方を確認したいものです。

